

ご挨拶

スーパースラッガー野球塾
代表 若林 憲一

こんにちは。スーパースラッガー野球塾代表の若林憲一です。

私は、1981年にプロ野球選手を引退して以来、野球とは、無縁の生活を送っていましたが、1990年ごろに、プロ野球の同級生仲間の昭和28年生まれの親睦会「プロ野球28会」が発足されました。会員には、梨田昌孝氏、中畑清氏、真弓明信氏、田尾安志氏、落合博光氏など球界を代表するメンバーが名を連ね野球を通じた社会貢献を目的に野球教室やチャリティーオークションを行い売上金を日本赤十字社などに寄付する活動を行いました。この活動を通じて数年ぶりに野球に関わることができました。そのような中、1993年にJリーグがスタートし小学生の多くがサッカー選手にあこがれるというサッカーブームが沸き起こりました。サッカーブームを目の当たりにしたプロ野球OBの多くは、長きに渡ったプロ野球の歴史と実績、プロ野球人気の衰退に危機感を持ちました。もちろん私もプロ野球OBとして危機感を抱き、何かできないものかの考えていた折に「日本の野球の底辺拡大」「技術力向上」「プロ・アマ交流の促進」をテーマにプロ野球OBの任意団体「プロ野球OBクラブ」が発足しました。私は、プロ野球OBクラブでは、底辺拡大委員として、野球人口の裾野を広げるための広報や野球教室開催などの活動に携わり、個人的活動では、近隣の幼稚園児や小学生に対して公園などで土曜野球塾を行いました。土曜野球塾では、楽しく野球に接してもらうことをコンセプトに、ボール遊びやミニゲームを行い野球の楽しさを伝え、失敗してもいいからやってみようかと励ましました。小さな活動でしたがやがてその人数は、徐々に増えていきました。最初は公園でやっていたのですが、企業のご好意で社屋の屋上を開放してもらいそこでTバッティングやスローイングなどをやりました。その後、社屋が使えなくなり近所の空き地を借りていましたが建築工事のために2008年3月をもって返却いたしました。利用できないということは、以前から聞いていたので2年ほど前からJR高架下の施設の交渉に当たり、2008年5月、念願かなって新施設への移転をすることができました。ここまで来るのには、何回か挫折しそうになりましたが、多くのご父母や近隣住民の方々のご協力と忘れていた野球魂を呼び起こしてくれた少年、少女たちのおかげで乗り切ることができました。野球人気をこのまま維持していきたい、野球選手をもっと増やしたい、野球ファンを増やし夢を与えたいという気持ちと野球を教えてほしいという子供たちがいてくれたおかげで今日を迎えております。基礎から教える上達した子供たちには、リトル、ボーイズ、シニア、軟式学童などのチームを紹介し、また彼らも入団してがんばっています。私の願いは、野球を好きになってくれ、野球選手に憧れ、野球選手を目指す子供たちが一人でも増えてくれることです。チームやリーグの垣根なく、幼稚園児から大人まで野球をもう少し上手になりたいという人のためにちょっとしたアドバイスと学ぶ環境を提供することでお手伝いしたいと考えています。チームに所属している選手には、チームの指導の補習的に、初心者には基礎から丁寧に指導することで、チームにとってもその選手にとってもよりよい方向に行くアドバイスをしたいと思っております。今後も野球指導に関連した多くのことを勉強し皆さんにフィードバックし、一人でも多くの野球選手が、一日でも長く野球を続けてくれるようにがんばります。なお、新施設への移転を機に事業化に踏み切り更なる指導力と施設の向上に努めて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

2008年5月3日